【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第３区分
【発行日】平成16年8月19日(2004.8.19)

【公開番号】特開2002-156120(P2002-156120A)
【公開日】平成14年5月31日(2002.5.31)
【出願番号】特願2000-349751(P2000-349751)
【国際特許分類第７版】
　Ｆ２４Ｃ　7/02
　Ｆ２４Ｃ　7/04
　Ｆ２４Ｃ　7/08
　Ｈ０５Ｂ　6/68
【ＦＩ】
　Ｆ２４Ｃ　7/02　３３０Ｄ
　Ｆ２４Ｃ　7/02　３２０Ｊ
　Ｆ２４Ｃ　7/02　３５５Ｒ
　Ｆ２４Ｃ　7/04　３０１Ｚ
　Ｆ２４Ｃ　7/08　３３０
　Ｈ０５Ｂ　6/68　３２０Ｑ
　Ｈ０５Ｂ　6/68　３２０Ｖ
　Ｈ０５Ｂ　6/68　３３０Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成15年7月30日(2003.7.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
調理物を収納する加熱室と、前記調理物を加熱する加熱手段と、前記調理物からの赤外線量を検知する赤外線検知手段と、前記赤外線検知手段により検出された値により所定時間毎の変化量を算出し、その変化量が前記検出時において最も大きい場合にその変化量に基づいて加熱時間を設定する制御手段とを備えたことを特徴とする加熱調理器。
【請求項２】
前記制御手段は、赤外線検出手段による検出値が予め設定された値以上となった場合は加熱を停止するように加熱手段を制御し、前記検出値が予め設定された値未満である場合は、前記検出値に基づき所定時間毎の変化量を算出し、かつその変化量が前記検出時において最も大きい場合にその変化量に基づいて加熱時間を設定し、前記加熱時間に基づいて前記加熱手段を制御することを特徴とする請求項１記載の加熱調理器。
【請求項３】
前記制御手段は、前記赤外線検出手段による検出値に基づいて所定時間毎の変化量を算出するステップ、
前記所定時間毎の変化量と加熱時間を設定するのに用いた値を比較するステップを有し、前記変化量と加熱時間を設定するのに用いた値を比較するステップにおいて、加熱時間を設定するのに用いた値より前記変化量の方が大きかったときには、前記変化量と加熱時間を設定するのに用いた値とを置換えるステップ、及び、前記変化量に基づいた加熱時間を算出して残りの加熱時間を設定するステップを実行することを特徴とする請求項１または２のいずれかに記載の加熱調理器。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００３】
次に、動作について説明する。ここでは、操作部１１に設けた例えば「あたためキー」の操作により加熱を開始する場合について説明する。調理皿１０上に調理物７を載せ、あたためキーが操作されたか否かを判定する（Ｓ１００）。そして、操作したと判定された場合はマグネトロン、モータを駆動する（Ｓ１０１）。また、赤外線センサ６により調理物７の赤外線量を電圧Ｖｘとして検出する（Ｓ１０２）。そして、予め調理物に応じて設定されている電圧Ｖｔ（出来上り温度に応じて設定される）以上であるか否かを判定する（Ｓ１０３）。Ｖｘ≧Ｖｔと判定されると、マグネトロン、モータの駆動を停止し（Ｓ１０４）、加熱を終了する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
また、前記制御手段は、赤外線検出手段による検出値が予め設定された値以上となった場合は加熱を停止するように加熱手段を制御し、前記検出値が予め設定された値未満である場合は、前記検出値に基づき所定時間毎の変化量を算出し、かつその変化量が前記検出時において最も大きい場合にその変化量に基づいて加熱時間を設定し、前記加熱時間に基づいて前記加熱手段を制御するものである。
さらに前記制御手段は、前記赤外線検出手段による検出値に基づいて所定時間毎の変化量を算出するステップ、前記所定時間毎の変化量と加熱時間を設定するのに用いた値を比較するステップを有し、前記変化量と加熱時間を設定するのに用いた値を比較するステップにおいて、加熱時間を設定するのに用いた値より前記変化量の方が大きかったときには、前記変化量と加熱時間を設定するのに用いた値とを置換えるステップ、及び、前記変化量に基づいた加熱時間を算出して残りの加熱時間を設定するステップを実行するものである。